

新潟市暮らしの点検・評価アドバイザー会議におけるご意見への対応等

事業名：新潟暮らし奨励運動の推進

No.	ご意見	対応等
1	<p>・高校生には冊子は配布せず高校の先生にホームページを紹介してもらおうよう依頼しているとのことだが、若い人はQRコードからスマホで見られる方が情報が入りやすいのではないかと。</p>	<p>・若者向けパンフレット「N I I G A T A L I F E」の裏表紙には、関連サイトのQRコードを掲載しており、スマホからアクセスできるよう対応しています。</p> <p>・その他の印刷物についても関連サイトのQRコードを掲載し、若者が情報を得やすいよう工夫しています。</p>
2	<p>・薬科大の学生が卒業しても新潟には就職先がないということを知っている。せっかく新潟に来て卒業して県外に行ってしまうのはもったいない。新潟暮らしには職業の分野まで入り込んでいった方が良い。</p>	<p>・雇用の場の創出については、航空機産業など成長産業の育成や既存産業への支援などの取り組みを行っています。</p> <p>・市内はもちろん、県やハローワークとの連携も強化し、就職活動を行う学生に対して有用な情報をしっかり伝え、流出抑制につなげていきます。</p>
3	<p>・Uターンなどで新潟に戻ってきたときに地域のコミ協や自治会への働きかけなどの支援など、市民側が広く受け入れるということも大事だと思う。</p>	<p>・UターンやIターンなど本市へ移住してきた方々のネットワークづくりに取り組んでおり、先輩移住者へ相談したり、参加者同士が意見交換する場として交流会を開催しています。</p> <p>・移住者交流会参加者から、移住者同士のつながりに加え、地域とのつながりを作ることも重要であるという意見が出ていて、メンバーの中で地域への働きかけや協力のあり方などについて検討を始めている状況です。</p>
4	<p>・実際に新潟に住んでいる人には、新潟は住みにくい、働きにくいと感じている人も多いが、なぜそう感じているのかというところをもう少し深堀りをして、その結果を発信された方がよいのでは。結果が出ているのでいいでしょうではなく、これが働きにくかった、環境的に悪かったがこの施策がこんなにうまくいっています、新潟は長く住めますということを伝えられれば新潟に帰ってきたいイメージがつくと思う。</p>	<p>・本市へ移住をした方に、移住して良かった事・苦労した事などについてインタビューを行い、その内容をホームページなどで紹介し、新潟暮らしをイメージしていただけるよう、広く発信しています。</p> <p>・また、東京で移住セミナーを開催し、移住者が新潟での生活や仕事について語ることで、参加者が移住後の生活の具体的なイメージを描けるような機会を設けています。</p>

5	<ul style="list-style-type: none"> ・市で取り組みをしていること（例：スカイプロジェクト）をもう少し市役所内の横のつながりをもって紹介してもらったほうが若者には興味を持ってもらえるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟暮らしの魅力を伝えるため、組織横断的に情報やデータを収集しており、若者向けパンフレット「N I I G A T A L I F E」では、「新潟市のスゴイ企業」コーナーで航空機産業等市内の魅力ある企業を紹介しています。 ・高校生や大学生を対象とした、本市の魅力を伝える講義の中でも、航空機産業の育成や国家戦略特区の活用など本市の特徴的な取り組みも合わせ、若者に伝えています。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・市内在住の人でも知らないことは多いので、市内の企業視察を企画し首都圏から来てもらうなど検討していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏の学生を対象に、市内の企業を訪問するインターンシップ事業を実施するなど学生を対象とした職場体験を行っており、今後も市内企業の周知に努めていきます。